

# イギリス庭園紹介

中 田 久 雄

## 緒 言

イギリス庭園紹介と題したが、イギリスに大小 1,000箇所以上もある公開庭園を逐一紹介するものではなく、その極く一部の、著者が見聞した我が国では一般にあまり知られていないと思われる庭園について紹介するものである。取り上げる庭園はブリテン島中部以南に限る等選択に偏りがあり、その内容も精粗区々である事を断っておく。配列は南西部地方、中部地方、東部地方諸州に別け、各地方の州名アルファベット順、さらに州内の庭園名のアルファベット順とした。入場料は1996, 97年現在のものを示したがその後改定（値上げ）された所もある。植物名は種の特定まではせず一般名を記した。固有名詞は固有名詞英語発音辞典（三省堂）により近似の仮名表記とした。各園の説明の末尾に、正式名称、所有者、所在地、開園日、入場料その他のデータを付記した。各州の地図は（4）より、挿図は案内リーフレット類から作図したもの、写真は著者撮影の原図である。

## 南西部（SOUTH WEST）

### ● コンウォール（CORNWALL）

当地方はブリテン島の最西南端コンウォール半島の先端に位置し暖流（メキシコ湾流）の影響を受け気候温暖、特に冬の最低気温が高く、地形にも恵まれ、温帯から亜熱帯植物まで栽培可能であって、この2世紀の間に多くのプラントハンターによって世界各国から当時としては珍奇な植物が多数もたらされ定着している。

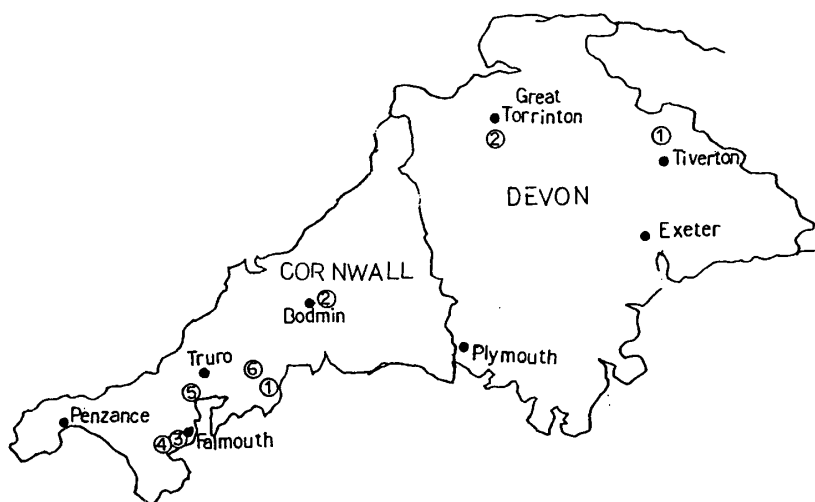


図 1  
コンウォール州・デヴォン州地図

コンウォール州：

- ①ヘリガン ②ランハイドロック
- ③ミュウドンホテル ④トレバー
- ⑤トレリッシク ⑥トレウィサン

デヴォン州地図：

- ①ナイツヘイズ ②ローズムア

## ① ヘリガン (Heligan)

ヘリガン (コンウォール語で柳) の名は12世紀に記録されているが、庭園としては1603年以來の事である。18世紀初頭に拡張され1870年代後半に現在の敷地規模 (57エーカー≒22.8ヘクタール) となった。第一、第二の両次の大戦中軍事施設として接収され、戦後長らく顧みられず荒廢の極に達した。1990年復旧が企画され工事は1991年より開始され早くも1992年4月2日には一部一般公開に漕着け1994年には略々完成し、その後も部分的に工事進行中である。然しながら多少の予備知識があったとしても現場に立てばとても復旧間もないとは思われぬ程、見事な姿を展開している。当園の最大特徴は殆ど廢墟と化していたものを丹念な探索の結果、元と寸分違わぬ姿に復元した事で、ロストガーデンと呼ばれる所以である。それと共に野菜や果物の古典的栽培法を実行展示し19世紀園芸の『生ける博物館』として天下に知らしめた事であろう。探査に当たり金属探知機によって鉛や垂鉛のラベルを探索し元の植物の種類、品種とその位置を確認するという念の入れようである。

駐車場から細い小道を100メートルあまり進み簡単な木造アーチを潜り、プラントショップやティーコーナーを通り抜けると広く平坦なフローラズグリーンと呼ばれるローンの中に植栽された色とりどりのシャクナゲの大木群に出会う。此の中には後にキュー植物園の園長となったサージョゼフ フーカによりシッキム、ブータン、ネパール等ヒマラヤ地方からもたらされたフーカーコレクションがある。その右手、高いヘッジを抜けると1.8エーカー (70アール) の野菜園に出る。此の地はもともと野菜、果樹の生産農園としてオーナーの家族と客人を始め最盛時には20人の社員、22人の社外傭人及びそれらの家族に野菜、果物を通年充分に供給出来る態勢であった。そのため輪作形式による周年栽培と貯蔵の技術が確立されていた。復旧後も大方の蔑視をよそに1860年代すなわちヴィクトリア時代の趣向に合わせているが、勿論品質上新品種の導入も図り、また別途一般向けの栽培ハンドブックの提供もしている。

弧状に湾曲した煉瓦塀を過るとメロンヤードに至る。この煉瓦塀は半円形にメロンヤードを囲む様に設置され、内側は南面しているので蔓性果樹のブドウのみならずアンズ、ナシ、チェリー等が壁付け栽培されている。イギリスでは各地にこの果樹の壁付け栽培がみられるが、これは特に春季生育初期の温度不足を補う目的で煉瓦や石の保温効果を狙っているものである。壁付けは19世紀半ば以降、針金の利用が考案されてからは壁面に沿って張られた針金に枝

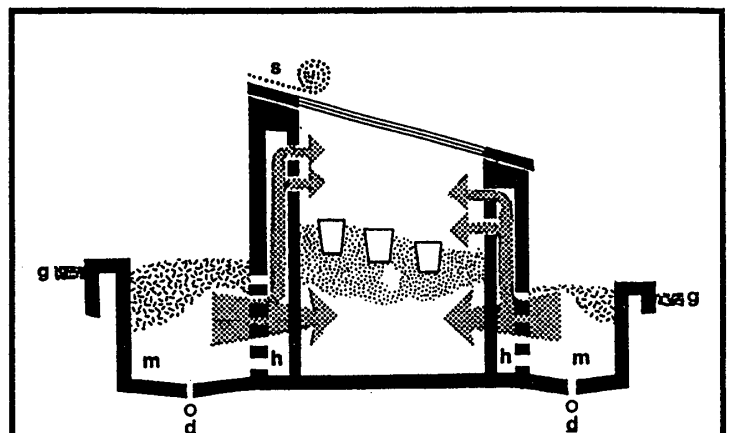


図2 パイナップルピットの断面図  
g: 地面 h: 支壁 m: 堆肥溝  
s: 遮光スクリーン d: 配水管

## イギリス庭園紹介

を誘引しているが、それ以前は釘や鋊（かすがい）で壁面に枝を直接打ち付けていた。従って古い塀では毎年の枝の配置のための無数の釘穴の跡が見られる。このメロンヤードの復元に当たってはスレート、木材、煉瓦等の古材を極力かき集め、また建築史学者の助言を得て完成に漕ぎ着けたと言う。ここで最も興味深いのはパイナップルピットである。これは中が空洞になった二重壁からなる半地下式の温床である（図1）。



写真1 シャクナゲの大木：ヘリガン

壁の外側に溝が切っており、そこにブナの葉やタンバーク\* 等堆肥の材料を充填し、その分解過程で発生した熱気が壁の空洞を通過し壁を熱すると共に穴から床内に吹き出しパイナップルの生育温度を保つ形式である。その温度は50℃にもなると言う。

メロンヤードから植え込みの中の園路をたどると周囲を塀で囲まれたフラワーガーデンに至る。ここは名前はフラワーガーデンであるが一部に切り花栽培はあるものの、花壇を配した所謂花園ではなく、小さな円形の池と言うよりは水溜めを中心に、四方に野菜、果樹、ハーブ、ガラス室群を配したキッチンガーデンである。このガラス室は1850年代初期の形式で園芸の産業革命の父と言われるサージョゼフ パクストンの設計になるものと言う。東のガラス室はオレンジ、ブドウ等が栽培されて西側ガラス室にはモモ、グワバ、パッションフルーツ等が栽培されている。

南門を出ると一変して所謂庭園の趣を成す、曾て『イングランドに於ける最も美しい宿根草花壇』と言われたサンダイアルガーデンに出る。ここは目下、宿根草花壇の復元進行中である。ここから右折して周縁園路を北上すれば入り口に戻る。

ここまではノーザンガーデンズと言われるヘリガンのごく一部で簡単な説明を聞きながら一巡りするのに一時間半はかかる。此のほかにイーストローン、ウェストローンとよばれる広大な芝地、ジャングル、ロストヴァリー等広大な敷地を有するが、時間的余裕がなく残念ながら割愛せざるを得なかった。

\* タンバーク (Tan bark) : 革をなめすために用いられるタンニンを多く含む樹皮。

The Lost Gardens of Heligan

Heligan Gardens Ltd.

Pentewan, St Austell, Cornwall. Tel: (01726)844157/843566, Fax: (01726)843023

通年毎日開園: 10:00am-4:30pm : 閉門 6:00pm

駐車場、軽食堂、便所の設備あり。車椅子可、犬は連行すること。種苗販売所あり。

入園料 : 大人 : £ 3.40、老人 : £ 2.90、子供 (5-15) : £ 2、5才未満無料、

家族連（大人二人と子供三人）：£9

## ② ランハイドロック (Lanhydrock)

狩猟地や林地を含む 1,000エーカー(400ヘクタール)に及ぶ全域は現在ナショナルトラストの所有に帰している。駐車場から緩い上り勾配のシカモア（セイヨウカジカエデ）の並木道を 500メートルばかり進み 17世紀半ばに建てられたと言う石造銃眼付楼門（ゲイトハウス）を潜ると広いローンと花壇を配し、フジその他蔓性植物を纏った石造二階建の宏大な館の正面に至る。この館はコ

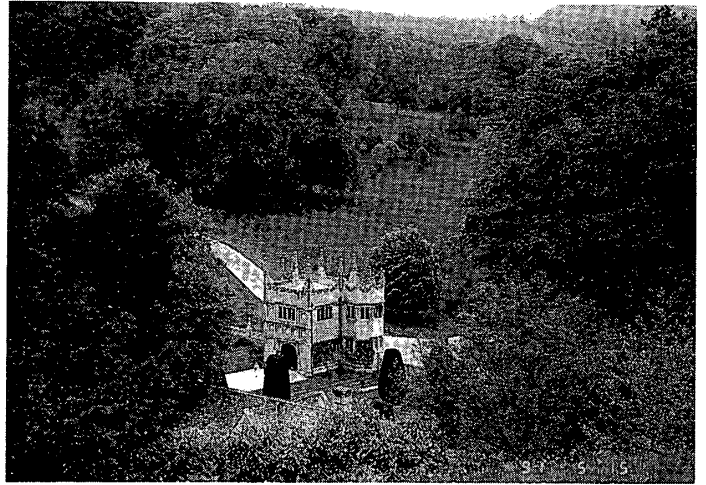


写真2 ゲイトハウス：ランハイドロック

ンウォール最大と称され1640年に完成したが、1881年の火災により北翼と入り口、車寄せを残し消失大破し、その後4年の歳月を掛けて再建されたと言う。従って焼失を免れた部分は一段と古色蒼然たる趣を呈している。館の右手奥には礼拝堂と墓地がある。この礼拝堂は15世紀以来のセントハイドロック教区教会の物で一般に公開されている。敷地内でこの礼拝堂のみがナショナルトラストに属していない。礼拝堂の前面は芝地でその中にワスレナグサを植え込んだ小花壇があり、園路に沿った狭いテラス式花壇にはナデシコその他宿根草が植わっている。園路右手には小規模な整形式庭園と花壇が続く。整形式庭園は低い石塀とその内側にさらに低いアイルランドイチイの生け垣を回らし、その中心に巨大な青銅製の壺を配置し、ワスレナグサ等を植え込んだ円形、方形、不等辺多角形の花壇が点在する。その彼方に大小の木々が疎らに生えた、なだらかな下り勾配の広い芝地、さらに遙か彼方に広がる田園風景を借景とした自然風景式庭園となっている。順路に従って進めば園路は小川のほとり湿地植物の中を通り、やがて右手奥にはマグノリアの木立の間に円形の宿根草花壇、更に進めば茅葺の小屋等がある。此の辺りは傾斜地ではあるが車椅子で通行出来る様に造成されている。左手奥、館の背後はかなりの傾斜地であるが林地の中に等高線方向に広い立派な車椅子用道路が付けられている。林地の中には、当園の特徴のひとつシャクナゲやマグノリアのコレクションがあり5月一杯、色とりどりのシャクナゲが楽しめる。その他ツバキ、アジサイ、ヤマボウシ等の混植あり、アーバリータム（樹木園）の様相を呈する。更に進みウッドランドを廻りUターンし途中ゲイトハウスを上から眺めながら下れば館の前に出られる。

Lanhydrock

The National Trust

Bodmin, Cornwall. Tel: (01208) 73320

3月26日－11月2日、毎日開園：11:00am-5:30pm、10月のみ5:00pm 閉園、入園は閉園30分前迄

## イギリス庭園紹介

館内はバンクホリデイ\* を除く月曜日閉館：11月-3月：日中開園、入園無料（館は閉館）

入場料：大人：£2.50（庭園とグラウンド）、£5.40（館を含む）、小人：17才未満半額、

5才未満無料、家族連れ（大人2人、子供2人）：£13.50

飼い主連行の犬は狩猟地とグラウンドのみ入園可、庭園と館は不可、但し盲導犬はこの限りにあらず。

\* バンクホリデイ (Bank holiday)：元々は銀行の休日であったが、現在では年に8日定められた法定休日でイングランド及びウェールズでは、元日、グッドフライデイ（イースターの前の金曜日、イースターマンデイ（イースターの翌日）、メイデイ、5月の最終月曜日、8月の最終月曜日、クリスマスデイ、ボクシングデイ（クリスマスデイの翌日）

### ③ ミュウドン ホテル (Meudon Hotel)

ファルマス近郊モーナンスミスの村外れにある、屋内天井にブドウの枝を取り込んだレストランを付属した小綺麗な宿屋である。

ガーデンはレストランの前面に始まり、テーブル、チェアその他ガーデンファニチャーを配置した、そして広くもないローン、自然石の石畳の中の噴水を備えた小さな睡蓮池やオダマキやジギタリスの植え込みのあるテラスを谷頭として谷際の歩道を海岸までゆっくり10分程下る、幅



写真3 ミュウドンホテル

最大で50メートルばかりの谷筋が、かのケイパビリティーブラウン\* の設計になる庭園であると言われているが、しかしブラウンは当地に来て実地指導したことはなく、当時の土地所有者、二人の富裕な商人から相談を受け助言を与えたものであるらしい。現在のデルガーデン（谷間の庭園）はブラウンの時代よりも1世紀ほど後の1850年代に設計されたものであると言う。次に述べるトレバーガーデンに程近く同様の趣であるが更に谷幅が狭く鬱蒼としていて、人通りは全くなく、時恰もこの時期この地方特有の深い朝霧の影響で全てが霞んで見え幽玄の世界を現出して、ケイパビリティーブラウンの主張する全くの自然と区別が着かぬようである。しかしそこに生育する植物の種類を観察するに巨大な木性シダ、マグノリア、チリアンファイヤブッシュ、ドリミーズ、コルディネリ、ハウエリア、グネラ等、異国産の植物が見られるので人工が加えられている事が知られる。行き止まりはヘルファッド川の広い河口で海岸と区別がつかぬ、波打ち際まで50メートルに満たぬ砂利浜と高さ数メートルから10メートル程度の低い崖の連続で、崖の中途にはアルメリア（ハマカンザシ）やプリムローズ（セイヨウサクラソウ）やラージイエローレストハロウの群落が見事である。

中 田 久 雄

\* ケイパビリティーブラウン (Capability Brown) : 本名ランスロット ブラウン (Lancelot Brown, 1716-1783) は施主の求めに応じ現場下見に際し屢々 "Has capability of improvement." 「改造の見込みがある」と呟いたので、『ケイパビリティーブラウン』と言うニックネームが奉られた。

Meudon Hotel

Mawnan Smith, Nr. Falmouth, Cornwall. Tel: (01326) 250541, Fax: (01326) 250543

#### ④トレバーガーデン (Trebah Garden)

ヘルファッド川の河口海浜に臨む標高差60メートルに及ぶ谷筋に展開する庭園。1830年代にチャールズフォックスにより始められたが1939年に持ち主が代わり第二次大戦中放置され特に1944年、大陸上陸作戦の基地になりその後も長らく放置され荒廃していたが、1980年ヒバート家を買収復元し1987年に一般公開された。1990年には慈善団体トレバーガーデントラストが設立され当園は其処に寄付された。



写真4 木性シダ：トレバーガーデン

本園はデルガーデン（谷間の庭）と世界各地から収集された珍しい植物、特に木性シダやグンネラ等暖地性植物の植栽を特徴とする。

入り口からプラントセールスを通り喫茶室と生け垣の間の狭い通路を通り抜けると園路に出る。パラグライダー場や子供の遊び場ターザンキャンプを左手に見ながら進むとやがて左下にデルガーデンが見えてくる。更に進むとウォーターガーデンの水源、コイプールと称する錦鯉の住む小池に行き当たる。逆戻りしてウォーターガーデンを右下に見下ろしながら途中ジグザグの急坂を下り谷底の流れに沿ったビーチパスをゆっくり下る。此の辺りは地中海地方を始めアフリカ、アメリカ、オーストラリア等世界各国から輸入された珍しい植物が植えられている。また木性シダやシュロの林等もある。やがて流れの彼方にシャクナゲの大木群を見ながら下ると、流れを横切るグンネラパッセイジに至る。ここには優に人の背丈を越える巨大なグンネラが群生している。そのまま進めばダヴィディアウオークに出るが、ビーチパスに戻りハイドランジアヴァリー（アジサイの谷）を右手に見ながら進むと広さ2エーカー（約80アール）の池、マラードポンドに至る。庭園はここで終わり、フェンスの彼方はフェルファッド川の河口で幅100メートルばかりの砂浜があり、波が寄せ殆ど海岸の様相を呈している。この浜はトレバーガーデンの私有で遊泳、日光浴、ピクニック等のために開放されている。但し水上スキーやモーターボートは禁止である。

## イギリス庭園紹介

帰路は往路と反対側の道をたどる。往路に取った谷底の道と異なり、谷の上部の森林の中の山道を登る。シャクナゲの谷を眼下に見ながらコイプールに至る。ローンパスを戻ればガーデンショップに至り出口に通ずる。

### Trebah Garden

Major and Mrs. J. A. Hibbert (The National Trust)

Mawnan Smith, Falmouth, Cornwall. Tel: (01326) 250448, Fax: (01326) 250781

通年毎日開園：10:30am-5:00pm（最終入園）、6:30pm 閉園

入園料：1997年3月1日-1997年10月31日

個人：大人：£ 3.00、小人：£ 1.00、老人：£ 2.80、身障者：£ 1.00

団体：大人：£ 2.60、小人：£ 0.80、老人：£ 2.40、身障者：£ 1.00

1997年11月1日-1998年2月28日（個人団体区別なし）

大人：£ 1.00、小人：£ 0.50、老人：£ 0.50、身障者：£ 0.50

小人：5-16才、5才以下無料

RHS（王立園芸協会）会員：無料

ナショナルトラスト会員：11月1日-2月末日：無料

駐車場（無料）、トイレット（館の後ろにあり）、車椅子：特定ルートのみ可、犬は飼い主誘導のこと。ガーデンショップ（書籍、フギフト、飲み物、軽食）、プラントセイルは庭園入園者以外でも入場無料

### ⑤ トレリシック (Trelissick)

トレリシックに関する最も早い記載は1280年であるが、18世紀半ばにこの地を開発したジョン・ロウレンスにより植栽が始められた。その後数次に互り持ち主が代わり、1913年レナード・カンリフにより庭園整備がなされ、彼の義妹アイダ・コーブランドとその夫ロナルドによって今日見るごとき庭園の基本性格が出来上がった。1955年コーブランド夫人はトレリシックハウス、25エーカー（10ヘクタール）の庭園並びに 376



写真5 トレリシックハウス

エーカー(150ヘクタール)に及ぶ狩猟地及び森林をナショナルトラストに寄贈した。

風見の付いた時計台を載せた赤煉瓦造りのゲイトハウスを潜りコートヤード（中庭）を通り抜け入場券売り場から入り口建物を通り戸外へ出るとイチジク園がある。片方煉瓦塀の極く狭い場所に1979年植栽の11品種のイチジクが植栽されている。煉瓦塀には長い花穂のフジが満開であっ

## 中 田 久 雄

た。入園路の植え込みの間から垣間見るイオニア式柱頭の列柱を配したガーデンファサード\*のある館の前の砂利敷きでは園丁が大型のレーキを引いてゆっくりと往復していた。園路左手の緩く傾斜したメインローンの中心には落雷にでも撃たれたのか幾本もの幹が叢生したスギの大木が一本周囲を圧するように立っている。ツバキ、シャクナゲ、ヒイラギナンテン等灌木の茂る園路にはスレートを縦方向に埋め込んだ舗道があり、スレートを縦あるいは横方向に積み上げ、その石積みの隙間に野草を植え込んだ低い塀が続く。更にアジサイの植え込みが続くハイドランジアウォークを通りファル川への急斜面に平行に造成された歩道を進むとその末端セルティッククロスに1996年に建築されたヴィクトリア調の木造四阿屋（あずまや）がある。ここからファル川を隔てた眺めは素晴らしい。このあたりは水深が深く良好な泊地を提供し、現に貨物船が数隻停泊していた。又眼下にはキングハリーフェリーの渡船場があり鈍いエンジン音を響かせながらフェリーボートが就航していた。

逆戻りしてメインローンの手前を右折するとキングハリーフェリーの渡船場へ下るウッドランドウォークへ通ずる谷を跨ぐ長さ30メートル足らずの鄙びた橋を渡り、ツバキ、シャクナゲ、マグノリア、ガマズミ、ウツギ等の灌木が植わったカーカッデンと呼ばれる庭園に出る。此处は1960年代まで果樹園や苗圃であったものを改植して現在に至ったものであると言う。

トレリシックの一つの特徴としてコルニッシュアップルやプリマスピアその他絶滅に瀕している、古い当地方在来の果樹類の保護増殖に力を入れている事である。その現場はウッドランドウォークを5マイル（8キロメートル）歩いて達せられると言う。なおウッドランドウォークへは庭園から直接出入り出来ない。

トレリシックはなだらかな台地からファル川になぎ落ちる急斜面まで土壌の変化に富みpH5.5乃至6.5の範囲にあり栽培可能の植物の種類が豊富である。年間降水量41インチ(1040 ミリメートル)、最低気温約46° F(9°C)、夜間最高気温約56° F(14°C)で温帯性植物はもとよりバナナ等の亜熱帯性植物の栽培も可能である。

\* ガーデンファサード(Garden facade)：庭園に面した建物の正面

Trelissick

The National Trust

Feock, Nr. Truro, Cornwall. Tel: (01872) 862090

開園：3月1日－10月31日：月－土曜：10:30am-5:30pm（3月、10月は5:00pm 閉園）

売店、食堂、アートアンドクラフトギャラリー：11、12月：月－土曜：10:30am-4:00pm、  
日曜日：12:30am-4:00pm（食堂は正午より）

入園料：大人：£ 3.80、家族券（大人2人、子供2人）：£ 9.50、17才以下半額、5才以下無料、予約団体（15人以上）各£ 3.00

駐車場：ナショナルトラスト会員無料、会員外£ 1、庭園入園者には庭園入口にて払戻しあり。車椅子：一部使用可、車椅子、バッテリーカーの用意あり。犬は庭園入場不可、狩猟地及びウッドランドウォークのみ入場可、但し家畜放牧中は飼い主の管理を要



す。塵芥処理は定めに従うこと（成るべくお持ち帰りを乞う）。

## ⑥ トレウィサン (Trewithen)

駐車場からブナやオークの木立の中の砂利道を進むと、やがて時計台を戴いた煉瓦造りの立派な納屋を東西両側に従えた館前のサークルローン（車回し）に至る。正規の入り口は駐車場からプラントセンターを通って入るのであるが、特別に東納屋と館の間の煉瓦塀の潜りから入れてもらいプライベートローンを経て館のガーデンファサードに至る。



写真6 メインローン：トレヴィサン

ガーデンファサードから幅50メー

トル長さ 200メートルばかりの少々先細りのメインローンが続く。その両側にはカエデ、スイカズラ、ニシキギ、アザレア、ランタントゥリー、ヒイラギナテンその他様々な灌木類の植え込みが彩りをそえる。中でも丁度花盛りのケアノトゥス アルボレウス「トレウィサンブルー」の青い花穂が一際目立つ。またメインローンの奥まった所に植えられた紅の覆輪の鮮やかなサラサドウダンが見事である。これらの植え込みの外側にはカバ更にその外周にブナの大木が防風林を形成している。メインローンの突き当たりのシクラメンバンクを右折してツバキのコレクションのあるカメラウオークを経て館の方へ戻ると館の西端に接して広さ10アール程の長方形のウォールドガーデンに至る。ガーデンの西端の一段高く設えられたテラスにはスレート葺きの古風な四阿屋（あずまや）が建っている。ウォールドガーデンは中央に芝地を配し、その四隅にバラその他小灌木や宿根草の植え込み、芝地を取り囲む園路と周囲の塀の間にもアイリス等色とりどりの草花が植えられている。プラントセンターから低い垣根で仕切られた稍昇り勾配の狭い坂道をたどると駐車場に出る。実は此处が正規の出入り口である。

Trewithern Gardens

Mr and Mrs A. M. J. Galsworthy

Granpound Road, near Truro, Cornwall. Tel: (01726) 883647; Fax: (01726) 882301

駐車場、喫茶室、トイレ完備、車椅子可、犬は飼い主誘導、プラントショップあり。

開館：4－7月；月、火曜日：2:00－4:00pm. 開園：3－9月：月－土曜日（4、5月は日曜日も）：10:00am-4:30pm

入園料：大人：£2.80、小人：£1.50、団体（12人以上）各£2.50、入館料：大人：£3.20、小人：£1.50

## ● デヴォン (DEVON)

コンウォールの東側に接し標高はやや高いが気候、地形共にコンウォールに準ずる地域である。

### ① ナイツヘイズ (Knightsheyes)

標高450フィート(135メートル)総計50エーカー(20ヘクタール)に及ぶ庭園は20世紀の創作である。

広い屋敷内のブナやオークの大木の疎林の中の長い進入路を通して駐車場に至る。駐車場のそばにプラントセンターがありそこを一瞥して車道脇の歩道をの館正面へと向かう。館の右翼すなわち西端に付随するコンサヴァトリー(温室)の横を通してガーデンファサードに出る。



写真7 テラスガーデンから眺めた館のガーデンファサード：ナイツヘイズ

ガーデンファサードの前は幅5メートル足らずの砂利道が左右に伸びており、館のすぐ前から3段のテラスガーデンとなっている。テラスの最下段には方形花壇を3個配し中央花壇の中心に数頭の銅製のイルカ像が支える銅盤を備えた小噴水がワンポイントを成している。更に緩い下り傾斜の広い芝地が続きハーハ\*を介して放牧地が続く、その先はデヴォンの田園が借景となっている。この芝地から眺める館の見事さは筆舌に尽くしがたい。館の壁面には2階の軒先まで数メートルの高さに互ってフジ蔓が伸び淡い紫色の花穂が見事である。館の東側に接する附属棟の前には美しい曲線を描く低い刈り込み生け垣に囲まれた花壇が続く種々の宿根草が植わっている。更に園路を東進すると左手に敷石を敷き詰めた中に大小の方形花壇を配置したペーヴドガーデンがあり花壇にはアルパインプランツ(高山植物)、球根類が植わっており、続いてイチイの刈り込みに囲われ、中心に円形の池を配したプールガーデンがある。右手には狐とそれを追い回す犬をかたどったトピアリ(造形刈り込み)が見える。更に進めば右手に種々の宿根草の下生えを伴った灌木群のある林間庭園、左手奥にはアーボリータム(樹木園)に至る小道が通じている。一巡りして館の正面に戻る。車道を隔てた西側に谷間を利用したアザレアデル(ツツジの谷間)が1970年に造成開始され現在も工事進行中であると言う。白、黄、橙色のアザレアとブナやオークの疎林の谷間を隔て緩い起伏の続くデヴォンの田園風景が見渡せる。

\* ハーハ(Ha-ha)：隣接する放牧地と庭園を区切るための柵の代わりに設ける溝、或いは段差。これによって庭園への家畜の侵入を防ぐと共に柵による景観遮断を防ぐ。

Knightsheyes

The National Trust

Bolham, Tiverton, Devon. Tel/Fax: (01884) 253264

庭園、放牧地、狩猟地を含む敷地総面積: 250エーカー(100ヘクタール)、標高400-500フィート

## イギリス庭園紹介

ト(120-150メートル)、年間降水量36インチ(914ミリメートル)

駐車場：(身障者用を含む)完備。食堂、喫茶室、トイレット完備。車椅子可。犬は誘導を要す、但し獵園のみ可、館、庭園は不可。売店、プラントショップ有り。

開館日：3月28日-11月2日：毎日(聖金曜日を除く金曜日：閉園)：11:00am-5:30pm

11月、12月：予約団体のみ日曜日：2:00-4:00pm

開園日：(庭園、駐車場)：3月28日-11月2日：毎日：11:00am-5:30pm

入場料：館と庭園：£5.00、庭園のみ：£3.30、予約団体：各£4.20

### ② ローズムアガーデン (Rosemoor Garden)

1960年代始めアン・ベリー夫人により創設公開された8エーカー(3.2ヘクタール)の庭園と隣接の32エーカー(12.8ヘクタール)の放牧地が1988年に至り王立園芸協会に寄贈された。その後協会の手で放牧地に様々な様式の庭園が造成され、全40エーカーが林地、果樹園を含めほぼ完成している。南北に長手の園地のほぼ中央を南北にB3220線が縦断し北東の隅がアン夫人創設の古い庭園と樹木園、道を隔てた西側が新規造成の



写真8 ストリームガーデン：ローズムアガーデン

庭園で両者は地下道によって通じている。公道から入って直ぐの所に二三の樹木を植え込んだ広くなだらかな車回しの低い築山の上から北方にトリッジ川の谷を隔ててグレートトリントンの村落と教会の尖塔が望まれる。駐車場から直ぐ入り口建物がありレクチャーホールの脇から真下に整形形式庭園が眺められる。手前左にモダンローズガーデン右にシュラブローズガーデン、奥左にスパイラルガーデン右にスケアガーデンが田型に配置され更にその右手に湾曲した園路を持った稍不整形の観葉植物園とハーブガーデンがありその一隅に小さな茅葺きのコテージが建っている。それぞれのガーデンには又小区画の花壇が配置され各種植物が植栽され子細に観察するには長時間を要する。この一画は南西北の3面が高いヘッジで囲まれ特に西面はヘッジの内側に灌木類の植え込みがあり外側は鬱蒼とした樹林がトリッジ川への斜面を覆っている。ヘッジを抜けると芝地に疎林の広々とした景観が広がり、園路は右手の樹木園から流下する細い流れに沿ったストリームガーデン(沼沢園)に差しかかる。流れの両側にはアイリスその他湿性植物が植栽され、兩岸の石組みや小瀑等日本庭園さながらの景観を呈する。流れは湿生植物や木立の中を流れ下って広さ1エーカー(40アール)程の池に達する。水面にはスイレンが浮かび、池の周囲にはヤナギ等の水湿を好む樹木が植わり、奥の方は鬱蒼とした森林となっている。園路を更に北に進むと果樹庭園、更には低木の囲いの中に果樹、野菜の見本園、ガラスハウス群がある。流れまで引き返し地

下道を潜って旧庭園に向かう。最北端の最も奥まった所にローズムアハウスがありその手前レディーアンズガーデンを中心にオールドキッチンガーデン、ウッドランドガーデン、ストーンガーデン等古い姿がそのまま残されている。古いだけあって大木、巨木が多く新庭園に比べて鬱蒼として少々暗い感じがする。旧テニスコートやクロッカーローンの跡地を経て地下道を潜りもとに戻る。出口にはプラントセンターがあり各種苗物が並び、屋内には売店があって種子や様々のガーデングッズ、ギフト、園芸関係図書を販売している事他の王立園芸協会のガーデンと同様である。

# Rosemoor Garden

The Royal Horticultural Society

Great Torrington, Devon. Tel: (01805) 624067 ; Fax: (0185) 624717

クリスマスデイを除き通年毎日開園：ヴィジターセンター：1月2日-12月23日

開園時間：4-9月：10:00am-6:00pm；10月-3月：10:00am-5:00pm

入園料：大人：£3.20、小人(6-16才)：£1.00、6才未満無料、王立園芸協会会員無料

軽食堂、トイレットの設備あり、車椅子可

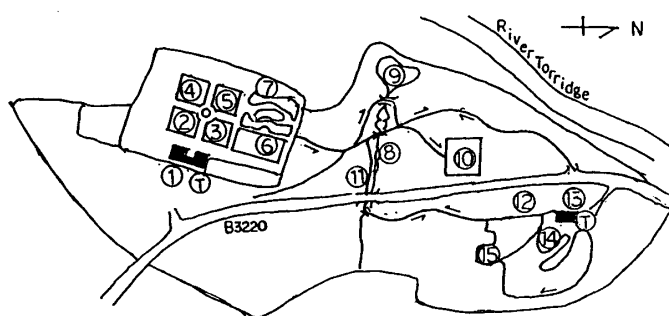


図3 ローズムアガーデン案内図

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ①入口          | ⑨池            |
| ②モダンローズガーデン  | ⑩果樹及び野菜園      |
| ③シュラブローズガーデン | ⑪横断地下道        |
| ④スパイラルガーデン   | ⑫メインローン       |
| ⑤スケアガーデン     | ⑬ローズムアハウス     |
| ⑥ハーブガーデン     | ⑭オールドキッチンガーデン |
| ⑦フォーリッジガーデン  | ⑮クロッカーローン     |
| ⑧ストリームガーデン   | ⑯トイレット        |

## ●ウィルトシャー (WILTSHIRE)

南部イングランドの内陸部チョーク丘陵地帯で年間日照時間多く、気温上昇が大きく且つ気温較差が大きいので、リンゴやチェリー等の果樹園も見られる。

## ◎スタウアヘッド (Stouahead)

1741年から40年間に互りヘンリーホア二世 (Henry Hoare II) により造園された。彼は造園については全くの素人であったが、3年間に及ぶイタリア旅行によって得た知識と天性の芸術的感性によって、当時一世を風靡していたケイパビリティーウラウンの自然風景式にこだわらず、独自の境地を開拓した。その後代々のホア一族により整備され、特に19世紀に至り外来の新しい植物の植栽が進み、庭園の色彩



図4 ウィルトシャー地図  
◎スタウアヘッド

## イギリス庭園紹介

構成に変化をもたらした。1946年にナショナルトラストに寄贈されている。18世紀におけるイギリス風景式庭園の模範的な例として、イギリス庭園に関する写真集や著書によって我が国でも良く知られた代表的庭園の一つである。

広い駐車場の正面の平屋建の受付建物を経てジグザグの小道を下り谷筋に付けられた車道をオーバクロスする歩道橋を渡ると赤煉瓦で囲まれたウォールドガーデンに至る。ここ



写真9 ブリストルハイクロスとターフブリッジ：  
スタウアヘッドガーデン

は低い3段のテラスから成り以前はキッチンガーデンとして使用されていたが現在はチェリーやナシ等が植栽されている。ウォールドガーデンを通り抜け、ゲイトハウスから巨大なクリの古木の並木のある、館へのメインロードを進み、館のファサード\* の見える辺りから左折してシャクナゲやアジサイの植わった広いローンを横切って暫く行くと、やがて深い木立に覆われたジグザグ歩道を湖岸へと下る。湖岸線東側斜面の中腹の緩く長い下り坂のブナやオークの巨木の木立の中にシャクナゲ、ランタントウリー、ハンカチノキが見られ、下草にはブルーベルやレッドキャンピオンが見られる。湖水の北端、湖面に降りる坂の途中に巨大なモンキーパズルの独立樹が立っている。湖面の最も狭く奥まったアシ原の中を歩道は逆方向に廻り、湖水の西側の少々広い緩斜面の中を進む。やがて歩道は二手に別れ、左手即ち湖岸に接する道を辿るとイチイのトンネルや石組みのアーチを潜って、泉の中にアリアドーネと水神の巨像を配置したグロット（洞穴）に至る。湖水に面したグロットの開口部から対岸のフローラの神殿やターフブリッジが垣間見られる。グロットを出て元の歩道に合流すれば間もなくゴシックコテージを経てパンテオンに至る。パンテオンは4本のイオニア式列柱を備えたファサードの後部にドームを付設した石造建築で、ドームの内壁にヘラクレスその他の神像が描かれている。このファサード階前に座して眼を回らせば広い湖面の彼方に石造のターフブリッジ、その彼方のブリストルハイクロスの尖塔、セントピーターの教会、一際高く聳えるアポロの神殿等々スタウアヘッドガーデンの見せ場が一望にして得られる。湖水の南端狭い水路を渡り、左手が湖面、反対側が他人の敷地の水面の間の平坦な地峡の芝地に付けられた歩道を進めば、右手柵の彼方の樹間に小瀑布（カスケイド）が懸かっている。やがて右手の急斜面に付けられた石段道を登り平坦な高台の少々広い芝地にアポロの神殿が建っている。

アポロの神殿はコリント式列柱に囲まれた円形建造物で、レバノンのバールベックに於いて発掘されたローマ時代の遺跡を模して1865年に築造された建物である。神殿の丘から下って周遊歩道に合流した地点に5つの美しいアーチの石橋ターフブリッジが架かっている。その手前右にブ

リストル市に貢献した統治者を記念して15世紀初頭に建てられた細長い骨組みだけの石塔ブリストルハイクロスが建っている。これは1762年に解体保管されていたものを1765年にヘンリー・ホアによってブリストル市から移築されたものであると言う。その傍らにセントピータ教会と付属墓地がある。ターフブリッジを渡って直ぐの湖岸にフローラ神殿があり、その石造シートに座して対岸のパンテオンを眺めるのも一興である。これで池泉回遊コースは終わり、この間約2マイル(3.2キロメートル)景色を眺めながらゆっくり歩いて2時間はかかる。このコースの他にここを出発点として湖岸に接して回遊する1¼マイル(2キロメートル)の平坦な道が整備されているので歩行困難な身障者でも車椅子を利用すれば充分景色を楽しむ事ができる。貸出用車椅子はこの出発点に用意されていて駐車場からここまで6人乗り電気自動車のサービスがある。事業用車道に出てレストラン、ナショナルトラストショップを経て坂道を登れば入り口にもどる。

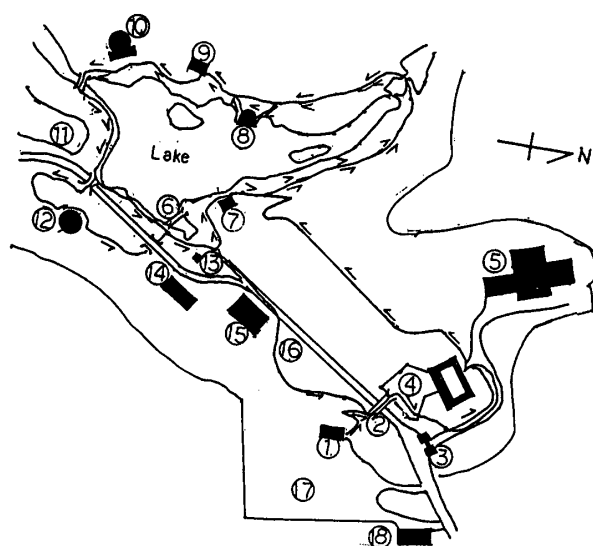


図5 スタウアヘッドガーデン案内図

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| ①入口(受付、トイレ)              | ⑩パンテオン       |
| ②歩道橋(ウォールドガーデン 入口へ、一般順路) | ⑪カスケイド(小瀑布)  |
| ③ゲイトハウス                  | ⑫アポロ神殿       |
| ④ウォールドガーデン               | ⑬ブリストルハイクロス  |
| ⑤スタウアヘッドハウス              | ⑭デントピーター教会   |
| ⑥ターフブリッジ                 | ⑮スプレッドイーグルイン |
| ⑦フローラ神殿                  | ⑯身障者用駐車場     |
| ⑧グロット                    | ⑰一般駐車場       |
| ⑨ゴシックコテージ                | ⑱プラントセンター    |
- ← 一般順路; 18世紀回遊路  
 < 湖岸回遊路; 車椅子利用可

\* ファサード(Facade): 建築物の正面

Stourhead

The National Trust

Stourton, Warminster, Wiltshire. Tel: (01747) 840348

敷地面積: 93エーカー(37.6ヘクタール)、標高700 フィート(213メートル)、年間降水量40-44 インチ(1,016-1,118 ミリメートル)

開館日: 3月22日-11月2日; 木・金曜日を除く毎日: 正午-5:30pm. 最終入館5:00pm

開園日: 通年毎日: 9:00am-7:00pm

入場料: 5-10月: 大人: £4.30, 小人(5-16才): £2.30, 家族券: £10

11-2月: 大人: £3.30, 小人: £1.50, 家族券: £8

入園入館料: 大人: £7.70, 小人: £3.60, 家族券: £20

レストラン、ショップ、トイレ、身障者用駐車場の設備あり(スプレッドイーグルイン)。車椅子の便あり。弱者のために一般駐車場とスプレッドイーグルイン、湖岸廻り出発点、館の間に電気自動車の便あり。

## ●ナショナルトラストについて

正式名称は「史的名勝・自然的景勝地のためのナショナルトラスト」(National Trust for Places of Historic Interest or Natural Beauty)である。弁護士ハンター(Robert Hunter)、婦人運動家ヒル(Octavia Hill)、牧師ローンズリー(Canon Hardwicke Rawnsley)の3人の篤志家により、会社法による非営利法人として1895年に創始された国民のために歴史的価値或いは自然美観を永久保存するための慈善事業団体である。

相続法の改正により遺産をナショナルトラストに寄贈すれば遺族は相続税を免除され且つ引き続き居住権が認められる。この措置によって多くの領主館が土地とともにその子孫によって他に売却される事なく、ナショナルトラストの所有に帰したのである。

現在ナショナルトラストの所有する物件は古代記念物 1,000件、歴史的家屋 280件、庭園 160箇所、運河、鉱山、製粉所等の工業的記念物25件、更に田園59万エーカー(2,390平方キロメートル)以上、550マイル(880キロメートル)に及ぶ海岸線を保全し、その中に数多の昆虫類、鳥類、哺乳類の希少種が生息している。

ナショナルトラストは政府機関から独立し、事業遂行のため国家の直接的財政支援を受けていない。その運営は会員の会費、篤志家の寄付、贈与、ヴォランティアの奉仕等支援者の高潔な行為に頼っている。現在会員数は 220万を越え、ナショナルトラストはイギリスにおける最大の民間土地保有機関となっている。

## 参考文献

- 1 Brimacombe, Peter and Jennie:Gardens on a scale. English Tourist Board. 1996
- 2 Heligan Gardens Ltd. :The lost gardens of Heligan. 4th edition. Heligan Gardens Ltd. 1997
- 3 木原啓吉, 森下茂行:THE NATIONAL TRUST. 駸々堂. 1991
- 4 King, Peter:The good garden guide 1997. Ebury Press. 1997
- 5 Lacey, Stephen:Gardens of the National Trust. National Trust Enterprises Ltd. 1996
- 6 岡崎文彬:造園の歴史 II. 同朋社. 1982
- 7 Pring, Sue:Glorious gardens of Cornwall. The Cornwall Gardens Trust. 1996
- 8 各庭園案内リーフレット及びパンフレット